

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

January 2017 **53**
Vol. 53
毎月10日発行

【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

| | |
|---|--|
| 【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662 | 【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000 |
| 【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984 | 【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117 |
| 【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722 | 【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467 |

AIに負けない能力は、 充実した学生生活の中で身に付きます。

高木 秀章 (塾長)



新年あけましておめでとうございます。

中学3年生の皆さんは、私立入試まで1カ月。新年を迎え「いよいよ受験」という緊張感を感じているのではないのでしょうか。今までやれることは、一生懸命取り組んできました。ここからは、受験までのスケジュールを立て、体調に気をつけ、焦らず慌てず、1日1日すべきことを淡々と行ってください。

他の学年の皆さんは、今年1年どのような目標を持っていますか。きっと、初詣で願掛けをしたのではないのでしょうか。何事に対しても1000時間を費やせばその分野では大学で教えられるレベルの知識が身に付くそうです。朝に30分、夜に30分、1日1時間を3年間。私も生徒の皆さんに言える立場ではありませんが、年初の目標を忘れず、努力を続けたいものです。

年末の新聞記事に、東京大学の合格を目指す人工知能(AI)の「東ロボ君」のことが掲載されていました。このプロジェクトをまとめる新井紀子教授の朝日新聞への寄稿文に興味深いことが書かれていましたので紹介します。

しかし、それだけでは、文章や話の内容を理解できるようになっただけです。「意味を理解」とは自分の頭で考え、知識を使えるようにすることです。それを確かめる良い方法は人に説明することです。説明するというスキルは、人に話すことでも、文章を書くことでも同じであり、いかに論理的に、そして相手に伝わるように出来るかということになりますから、前述の読解力と一対となるスキルとも言えます。

そもそも、受験問題で読解力を問われる意味を考えると、社会生活(仕事)を行う上で、相手を理解し、相手に自分の意見や提案をわかりやすく伝えることが出来なければ、相手と協力して生活や仕事が行えません。つまり、読解力と説明力のスキルは、将来の生活と仕事を支える方法だと言っても過言ではないということなのです。

学生生活において、読解力と説明力を磨くには、受験問題に向かうばかりではありません。勉強を友達同士で教え合うこと、天声人語を要約すること、数学や理科の計算分野の間違直しノートを作成し、自分の言葉で誤答箇所解説を書くことなどは非常に効果の高い学習法です。

日本語には「察する」や「慮(おもんばかる)」のような言葉があるように、人間には表情や態度など「非言語」を推察する力があります。これは非常に高度な理解力であり、相手の気持ちを推しはかり、状況に合わせて、機転を利かせ対応する「適応力」の基礎となる力です。この力は、特にクラブ活動や学校生活などの人間関係の中で育むことが出来ます。また、音楽や絵画、デザイン、ファッションなどを楽しむ上でも「非言語」の理解が必要です。もちろん節度は必要ですが、それらに触れ理解するための感性を持つことは大切です。また、日記をつけることは、その時々感情や思い、その時に聞いていた音楽など、非言語を言語化する作業です。言いたいことや、自分の気持ちを詳しく書くことで、「読解力」や「説明力」をさらに伸ばすことができます。

上記の「読解力」「説明力」「非言語の理解力」をまとめたものがコミュニケーション能力、つまり「相手の気持ちや考えを理解し、相手に不快感を与えないタイミングや表現で自分の感情や意思を伝える力」です。そして、これこそがAIが持ち得ない、人とAIを分かちつ力であり、社会生活で求められる力です。

今年の大学入試模試でAIはついに関東のMARCH(明治、青山学院、立教、中央、法政)、関西の関関同立(関西、関西学院、同志社、立命館)の合格可能性80%以上と判定されました。5年前に、まるでSFのように思われた「AIは東大に合格できるのか」というプロジェクトは、今年で「大きな技術革新がない限りAIは決して東大に合格できない」と、「AIがホワイトカラーの50%の仕事を奪う」という2つの結論とともにその幕を閉じました。

AIの優れた情報処理能力を活用し皆さんの可能性を拓けるために、必要なのはAIが苦手とするコミュニケーション能力を磨くことです。そして、その基礎力の育成には、学校生活やクラブ活動の中で、よく学び、人間関係を育み、時間を見つけて趣味や読書などを楽しみ充実した学生生活を過ごすことにあります。

今年もいよいよ年が明けました。新年を迎えた皆さんに、この記事が学校生活を見直すきっかけになってくれればと思います。

私のはじきだしたのは、30年に現在のホワイトカラーの仕事の半分がAIに置き換えられるという予想だった(後に、それはオックスフォード大の研究グループが行った予測とびたりと合うことになる)。ならば、AIの可能性と限界をきちんと見極め、対策を取ろうではないか。AIには弱点がある。



▲東ロボ君の解答を書くロボットアーム

それは彼らが「まるで意味がわかっていない」ということだ。

数学の問題を解いても、雑談につきあってくても、珍しい白血病を言い当てても、意味はわかっていない。逆に言えば、意味を理解しなくてもできる仕事は遠からずAIに奪われる。私は次のように講演を締めくくる。

「みなさんは、どうか『意味』を理解する人になってください。それが『ロボットは東大に入れるか』を通じてわかった、AIによって不幸にならない唯一の道だから」

AIの技術革新が進むことで、将来の仕事は確実に変わっていきます。それらの中で、無くなる可能性のある仕事には、AIが苦手とする「意味」を理解するというスキルが必要であり、その方法を身につけることだと考えます。

意味を理解するためには、言葉を理解する必要があり、その基礎を成す力が「読解力」です。読解力の育成には、新聞や本などを習慣として出来るだけ早く読むことが必要です。読解力は学力の基本となる力でもあるので、身に付けることで、問題の読み取りや理解が正確で早くなりますが、効用はそれだけにどまりません。読むことは常に作者の話を一方向的に聞くことです。ですから、常に相手の立場に立ち、意味を理解する必要があります。読書によって「読解力」を磨くことで、相手の話が早く正確に理解できるようになります。



CLASSROOM REPORT 教室レポート

入試まであと2か月。自分に自信を持って、妥協せずに走り抜こう!

坪田 陽一 (諸口教室)

この原稿を書いているのは12月中旬。クリスマス会の開催、冬期講習会や来年度に向けての準備、さらに中3生の進路についての三者面談…と、まさに「師走」という名にふさわしい忙しさです。気温も急に下がり、体調を崩しがちなこの季節。睡眠と食事はきちんとし、時々栄養ドリンクのお世話にもなりながら乗り切っていきたいと思います。何事も体が資本。生徒の皆さんも体調管理は万全を期すようにしましょう。今回は諸口教室の様子をお伝えします。

12月10日にカイチ恒例のビッグイベント、珠算競技大会が関目教室で行われました。諸口教室の生徒達も健闘し、結果として何名か入賞はしましたが、他教室の強者たちに阻まれてなかなか1位とはれず…。それでも後日保護者の方に「参加させてよかった」と言っただけでした。たとえ教室の中では敵なしでも、競技会で上位の子達との差を見せつけられることで、「もっと練習しないといけない」と意識が大きく変化します。教室の中で百回練習の意義を説くよりも効果てきめん。まさに「参加することに意義がある」のだと思います。今回参加できなかった子も、来年ぜひチャレンジできるように、そして他の教室の子達を次こそはギャフンと言わせてほしいと思います。

パスカルキッズでは、この間入会されたばかりのお母様から「学校のテストで初めて100点が取れました!とおっしゃっていただきました。自分に自信がなく、すぐに「こんなのできん」と泣きそうな顔で言うような子でしたが、「いや、できる!」と励まし続け、「いいね、その調子!」と褒め続けた結果、「こんな…いや、できるかも」と言うようになりました。まずは「自分に自信を持つこと」が成長するために一番大事なことだと、改めて思われました。新たに経験豊富な板東先生にも指導に入っただき、今後も一人一人を丁寧に指導していきます。

トーキングキッズのクラスでは、Ms.カトリーナの指導のもと、みんな楽しんで通っています。10月末のハロウィンパーティーの後、新たに生徒が4名増えました。教室は、10月はハロウィンの飾りつけ、12月はクリスマスと、子供達が楽しめるように工夫されていて、学習部の小学生や中学生にも好評です。今後英語

については4技能(聞く、読む、話す、書く)が問われる時代。幼少の頃に「英語だけ」の環境を体験することは、その土台を作ることになり、とても貴重だと思います。私自身英語が苦手なので、もし子供の頃にこんな教室があったら…と、本当に羨ましく思います。

小学部の子達は、冬でも元気に通ってきています。小4国語の取り組みとして、以前から「論語」「平家物語」「枕草子」等の古典の「名文」を暗唱したり音読したりしています。「子曰わく、学びて時に之れを習う、亦た説ばしからずや…」「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり…」等、意味は一応教えますが、まずその響きに慣れ親しんでもらうのが狙いです。リズムがいいので読んでいて気持ちがいいらしく、みんな読解のテキストそっちのけで読みたがります。現在、こういう「文語体」に日常で触れる機会が格段に減っています。教室で読む機会を設けることで、古典の奥深い世界に少しでも興味関心を持ってもらえればと思います。

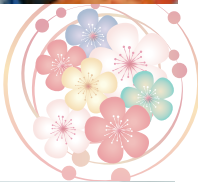
中学3年生は、12月が私立志望校を決定する大事な面談の時期。どの子の面談についても、事前に塾長を含めて教室長会議を行い、本人の志望校が適切かどうか全員で議論を行い、その上で面談を実施します。もちろん最終判断はご家庭にお任せすることになりますが、高校選びは今後3年間だけでなく、それ以

降の進路にも直結します。公立高校が第一志望でも、入試は当日の結果次第であり、「絶対」とは言い切れません。したがって併願の私立高校も慎重に選ぶ必要がありますので、なるべく具体的なデータを示しながら、的確な判断ができるように話をしています。

ここで大事なのは、決して妥協しないこと。現実を見ることも大事ですが、妥協して、例えば志望校が「いける学校」になってしまうと、この後の伸びが見られなくなってしまいます。他の子供達が頑張る分、偏差値としてはむしろ下がってしまう。目標に「あともうちょっと」というくらいが一番モチベーションを保てます。例えば私立専願であっても、もう一つ上のコースを目指す等、目標の設定一つで受験勉強に対する取り組みがガラッと変わります。

我が子も受験生ですが、志望校についてはなかなか言うことを聞きません。しかし学校や塾の先生の客観的な意見にはきちんと耳を傾けているようです。様々な意見に耳を傾けることで、後悔しない未来を選択してほしいと切に願っています。

今の中学3年生と関われるのも残りわずか。結果はどうあれ、3月には全員が卒業することになります。やり残したことはないように、残りの期間、生徒に伴走し続けます。



Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

第12回珠算競技大会が行われました!

岡本 泰行 (今津教室)

寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。風邪など引いていませんか。

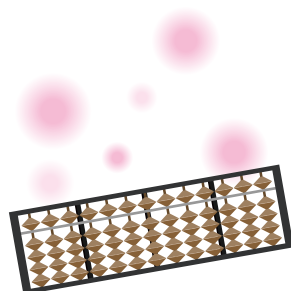
平成28年12月10日(土)に第12回珠算競技大会が関目教室で行われました。珠算競技大会は年に1度、全教室から選ばれた選手を集めて、読み上げ暗算、読み上げ算、プリント競技を競う大会です。11月の中旬に出場選手が発表され、約1か月の猛特訓の成果を競います。教室間対抗の競技のため教室のプライドをかけた戦いとなります。

我が今津教室は、まだ開校4年目の教室ですが、今福教室などの強豪校に一泡吹かせてやろうと、「目指せランクイン」と常に子供達に言いながら特訓を行っていました。ずっと私が言っていると、子供達も勝手に〇〇に負けたくないぞと、常にベストテンの上位者表に載っている子供達の名前を挙げ、練習をしていました。そして気になる結果は、賞状が小2で2枚、小3で3枚、小4で2枚、小5で1枚と、数多くの子達がランクインを果たしてくれました。また小4では、初の1位(読み上げ算の部)をとりました。賞状を嬉しそうにもらっている姿を見ると、我が子のように涙が出る思いでした(子供はいませんが、というか結婚もしていませんが…)。

さて、クライマックスのカイチNo.1決定戦ですが、読み上げ暗算では、4桁(千)~7桁(100万)の5口で決勝が行われ古市教室の高木晴史選手(小6)が優勝、読み上げ算では7桁(100万)~18桁(10京)の足し算と引き算の混じっている問題の10口で決勝が行われ今福教室の上田悠華選手(小6)が優勝しました。また、プリント競技の部では1400点満点中1245点で今福教室の奈島陸太郎選手(小5)が優勝となりました。昨年の優勝点の1075点

よりも約200点アップしており、年々レベルが上がってきています。競技大会の各教室の選考会前に、読み上げ算や、読み上げ暗算の桁数を先生達が集まって決めています。今回は、その決定した桁数に、「この桁数は難しい」という意見がちらほらあったのですが、いざ競技大会前になり、子供達が真剣に競技大会に向けて練習していると、最初は、全くだった子どもどんどん上達していき競技大会直前で読み上げ算の桁数を難易度が上がるように変更することにもなりました。大人が、勝手に子供達の能力に限界を決めたらいけないと改めて思いました。

競技大会の練習中に、居残り特訓を志願してきたり、プリントを何枚も持って帰ったり、また、家で読み上げCDを聞いて練習したり。また、保護者の方たちには読み上げの特訓をしていただいたり、家での練習プリントの丸付けを一緒にしていただいたりと、ご協力ありがとうございます。子供達は目標を持ち、それに対して一生懸命突き進めば周りの人は自然と一つの目標に向けて一緒に頑張ってくれるのが感じ取れたのではないのでしょうか。一生懸命な姿は周りの人を巻き込んでいきます。一生懸命な姿は素敵だと思います。今回賞状を取れた子もそうでない子も、一つの目標に向けて頑張ったという経験を踏まえて、自分達の自信に変えていって欲しいと思います。今年悔しい思いをした子は、また来年にその悔しさを晴らすため、日々出来ることは小さいことですが、「ちりも積もれば山となる」のごとく、大きな山になるように、コツコツと努力をして欲しいと思います。一生懸命目標に向かう姿を忘れずに頑張ってください。



COLUMN: 先生紹介 ▶ 古井 達也 (関目教室)

カイチは私の想像していた塾とは全く違いました。



はじめまして。関目教室で中学の個別クラスを担当している古井達也です。大阪国際大和田高校を卒業し、立命館大学理工学部在籍しています。まだまだ、未熟ではありますが、先生方や先輩方のアドバイスを受けながら、生徒達の指導に当たっています。

私も元々、カイチの生徒だったのでその時の話をさせていただきます。

私が塾に入ったのは小学校の卒業前のことでした。当時の私は成績が少しずつ落ちてくるも、勉強への危機感をあまり感じることがないといった状態でした。そんな時、母親に勧められた塾がカイチです。家から近い諸口に教室ができるということで、私は諸口教室の中1生の初めての生徒になりました。

私の塾に対するイメージはただ機械のように勉強をさせられる場所でした。しかし、中学に入って勉強からはさらに勉強が難しくなるということもわかっていたので、「嫌になったらやめればいい」と思い入塾しました。しかし、カイチは私の想像していた塾とは全く異なる場所でした。塾は勉強をしにいける場所なのに楽しいという感覚があったことです。入塾する前の勉強はめんどくさいけれど、やらなければならないことだった私にとってはとても衝撃的でした。そんな感覚で塾に行くことができたのは当時、諸口の教室長だった小田先生や坪田先生が優しく丁寧に教えてくれたからだと思います。学校でのクラブ活動や体調を崩して塾を休んでしまっても先生が補習を行ってくれたおかげで、中学の勉強にもついでにすることができました。

そして、中学にはいると当然、高校受験を意識しなければなりません。初めての受験にとっても不安を感じたことを今でも覚えています。しかし、カイチでは先生達が高校のことを細かく調べてく

れて、三者面談をさせていただいたので精神的にも安心して受験期を過ごせました。

カイチに通塾したおかげで、勉強に前向きな気持ちでいることができ、自主的に勉強をするようになり、成績も上がっていきました。

カイチのおかげで無事に高校入学を果たしたのですが、高校での成績は芳しくないものが続きました。カイチには当時、高校部がなかったので、どうしようかと悩みましたが、意を決して、カイチに電話をかけました。そうすると、二つ返事で小田先生に「すぐに成績を持って来て。アドバイスしてあげるから」と言ってもらうことができました。この言葉を聞いて、中3の時のように「これで大丈夫だ」と安心して覚えています。

アドバイスを受けた私はそれを実行し、大学に合格することができました。合格したことを報告すると、「じゃあ、次はその経験を後輩に活かさせてあげて欲しい」と言われ、今、カイチで働いています。他の塾には行ったことがありませんが、こんなに親身になってくれる先生達がいるのはカイチ以外にはないのではないのでしょうか。

私も色々勉強では苦労しました。そういう経験をしたからこそ、生徒の皆さんに伝えてあげることができると思いますので、これからどうぞよろしくお願いたします。

マナロの ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE マナロ 恭子 (バスカルキッズ上本町教室)



Love is doing small things with great Love.

…愛とは大きな愛情をもって小さなことをすること…

娘が幼稚園に通うようになり、8カ月が経ちました。娘のクラスの担任はまだ24歳で、先生になって2年目の若くてかわいらしい女性の先生です。親としてはベテランのある程度年のいっている先生の方が安心なのですが、私は担任の先生がこの先生で本当に良かったと思っています。

その理由は、保育参観や、個人面談、運動会に七五三と園へ出向く度に、担任の先生達の一生懸命さと子供達を本当に想ってくれていることが先生達の行動でよく伝わってくるからです。

例えば、園に娘を迎えに行った日には細かいことまで伝えてもらえたり、特に大したことがなくても何か良かったことを1つは見つけて伝えてくれているのだなというのが分かります。また、運

動会や発表会前には、家族の私達が覚えてしまうくらいダンスや歌を家でよく披露しているのは、園で毎日たくさん練習している、飽きさせることなく、疲れさせることもなく、上手に指導されているのが分かります。

生活発表会では、相当力を入れられていたのでしょう。最後の挨拶のときに担任の先生は、涙がこらえられないようでした。私達親も、頑張った我が子と担任の先生達の熱心さに感激し、もらい泣きをしてしまいました。

娘が幼稚園という社会へ出るようになり、私の社会も広がりました。同じ教育現場で働く者として幼稚園の先生方から見習うことがたくさんあります。特に、担任の先生達の何事にも一

生懸命で子供達一人一人に大きな愛を持って接してくれているところは、親として大変有難く、うれしかぎりです。

「愛とは大きな愛情をもって小さなことをすることです。」というマザー・テレサの言葉があります。娘の担任の先生達の温かい心は、まさにこの言葉のとおりだなと思います。

私が生徒達と触れ合える時間は、週に1~2回、1時間程度という短い時間しかありませんが、カイチを選んで来てくれたこと、そして出会えたことに感謝し、生徒達一人一人にもっと大きな愛情を持って、心をこめて生徒達と向き合い、しっかりと能力を伸ばして行ってあげたいと思いました。私がこの幼稚園を選んで良かったと思ったように、保護者の方からもカイチを選んで良かったと思えるよう努力していきたいと思っています。



初めての運動会で緊張することなく楽しんでた娘▶

カイチからのお知らせ

1月14日(土)は中1・中2生とその保護者を対象にカイチの新指導システムの説明会を鶴見区民センター小ホールで実施いたします。詳しくはお知らせで配布いたします。

■1月30日(月)・31日(火)は小4~中2の診断テストを実施します。

■2月4日(土)・18日(土)は新年度の入塾説明会・テストを実施します。珠算部やバスカル☆キッズより学習部へ入塾をご希望の方はご参加ください。新年度入会特典として教材費5,000円を無料とさせていただきます。

■2月12日(日)は珠算1~3級の検定試験です。